

Open Garden Showcase

太陽の光を浴び、さわやかな風にそよぐ
庭の緑。自然の存在を感じられる住まい
が伸びやかな気持ちにさせてくれる。今
回は、デッキテラスを囲むように配した二
世帯住宅やアプローチと中庭をひとつな
かりにした住まい、趣の異なる庭を随所
に設けた住まいなど、立地条件に合わせ
て豊かな外部空間を実現した3軒を紹介。

CASE-01

二つのエントランスと
デッキテラスが迎える開放的な住まい

F邸 東京・大田区

設計／スタジオCY 撮影／ナカサ&パートナーズ 文／早瀬美智子



94・95頁／オーナーである子世帯のエントランスから南側のデッキテラスを見る。天井高2.7m、約17m²の広々とした天然石貼りのエントランスは、ジャラ材のデッキテラスとフラットにつなげてオープンな空間とした。階段下に見える220mmの段差によって室内と場を分けている。紺色に塗装した幅3.4m×高さ2.7mの特注スチールサッシと、視線が抜ける浮遊感のある階段が、開放的な空間をさらに強調。Philippe Starckによるイタリア・FLOSのペンダントライト「ROMEO MOON S2」や、以前の住まいから使っている家具が柔らかな雰囲気を添えている。シンボルツリーとしてエゴノキを植えたデッキテラスからさわやかな風が通り抜ける心地良いスペースだ。

右／デッキテラスを挟んで東側に配した親世帯のエントランス。子世帯側と同じ素材、仕上げとした幅2.6m×高さ2.5mの開口越しに見える収納の引き戸に貼った東京・川島企画の數柑子柄の唐紙がオリエンタルな雰囲気を醸し出す。室内の床までデッキテラスのジャラ材を延長させ、外部との連続性を持たせた



さんさんと光が降り注ぐデッキテラスに面した二つのエントランスが、訪れる人々を温かく迎える。すがすがしい空気が流れる開放的な住まいには、朗らかな笑い声があふれていた。 東京・大田区の緑豊かな池上本門寺の西に広がる碁盤目状の地域。古くから門前町として栄え、その情緒を今もなお残す一角に邸は立つ。祖母が住んでいた土地を譲り受けたオーナーは、当初、夫妻と子どもたちで暮らすための新たな住まいを検討。しかし、共働きながらまだ子どもが幼いことを考慮し、両親と話し合い二世帯住宅を建てることに。以前の住まいでは祖母が日本舞踊を教えていたことから、幼少期よりも多くの人と触れ合う環境で育つた妻は、新居にもオープンな空間を希望した。

そこで建築家の堀内 雪さんは、3層の子世帯の棟と2層の親世帯の棟を東西に分けながらも、2階はそれぞれをつなぐプラン。2棟の間を通るアプローチの先に設けたデッキテラスを介して、振り分けた二つのエントランスがほど良い距離感を保っている。ヨーロッパのコートハウスのような開放感あふれるこのデッキテラスを囲む子世帯側の幅3.4m×高さ2.7m、親世帯側の幅2.6m×高さ2.5mのスチールサッシ（no.42）に掲載は、妻のこだわりにより海外で見掛けた趣のある窓を参考に紺色に塗装。シンボルツリーのエゴノキが柔らかな木漏れ日を落とし、さわやかな風が吹き抜けていく。

アプローチ東側の白い外壁の建物が親世帯で、エントランス正面の収納扉に数柑子柄の唐紙を貼り、和の印象に。その北側に水まわり、南側に父親が能の稽古をする和室を設け、和室は床座からの目線を考慮して幅2.4m×高さ1.5mと高さを抑えた開口からデッキテラスの縁を眺められる落ち着いた空間に仕上げた。一方、外壁にグレー染色のレッドシダー材を貼った西側は子世帯。ガレージから約600mm上がつたつながる天然石貼りのエントランスをデッキテラスと連続させることで、サッシを開け放てば室内外が一体となる伸びやかなスペースを生み出した。また、アプローチの途中にある吹き抜けに面した壁には約1.5m角のFIX窓を設けて



アプローチから、ひとつながりのデッキテラスを見る。右側が子世帯、左側と奥が親世帯のスペースで、外壁をそれぞれ好みに合わせてグレー染色を施したスギ材とアクリル系塗り壁材で凹凸のある仕上げとした白塗装に分けた。アプローチの上部は住まいのほぼ中心を貫く吹き抜けで、室内に明るい光を導く。その下部にある右手に配した約1.5m角の開口を通して、子世帯側のエンタランスとデッキテラスが垣間見え、広がりを感じさせる



Open Garden Showcase

上／家族や友人が集う3階のオープンキッチンは、オーダーキッチンメーカーのホップスに依頼。天板は人造大理石、面材はウェンケ材浮造り仕上げにグレー染色を施し、壁づけしたつり戸棚の扉には黒板塗料を塗装した。フード下のフックに調理器具、キッチンの面材と同素材で制作した右上のオープンシェルフに日常的に使う食器やカトラリーを収めている。ドイツ・グローエ社の水栓を採用した右手の1600角×高さ860mmのアイランド型カウンター下部には、食器や食材だけでなく、ダストボックスも収納。壁づけの幅約4000mm×奥行き650mm×高さ860mmとしたI型カウンターの左手にもパントリーを設けて、すっきりと見せた。左手前見えるGEの冷蔵庫やキッチンの収納、パントリーの取手のデザインを統一。左手は洗面、トイレ、ランドリーなどを一ヵ所にまとめたスペースとバスルームで、右手にはリビングダイニングが左頁／キッチンとワンルームでつながるリビングダイニング。4400mm×465mmのトップライトから差し込む光が南側の壁に映し出され、時間の経過と共に角度を変えていく。チェリー無垢材のダイニングテーブルはコンランショップ、籐を編んだダイニングチェアはIDÉEで購入したもので、以前から使用。グレーのソファは気分に合わせて茶色のカバーに変えている。照明はマックスレイ、左手の収納はIKEAで購入



採光を確保。住まいのほぼ中心を貫くこの吹き抜けが各階に光を導いている。

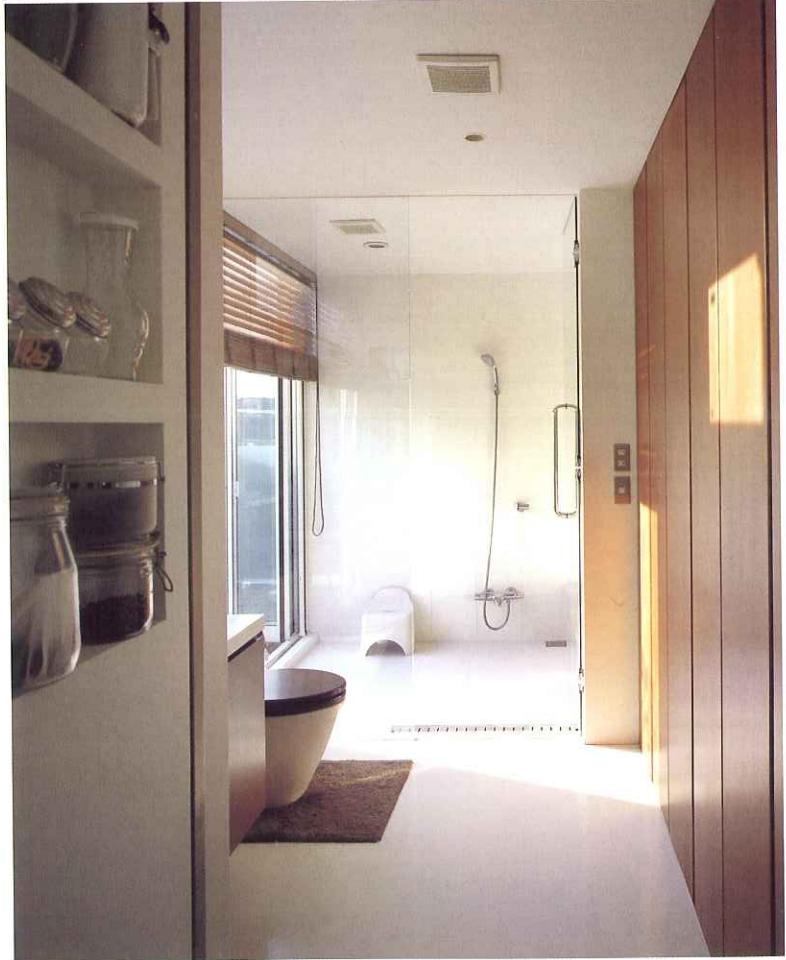


エントランスから浮遊感のある階段を上った2階には子ども部屋と主寝室をレイアウト。階段正面の扉で両親のリビングダイニングとつながるため、互いが自由に行き来できると共に、子どもが祖父母の近くで過ごすことができる。そして、メインフロアとなる3階は東側にワンルームのリビングダイニングとキッチンを配置。「夫婦でキッチンに立つことが多く、友人たちにも自由に使ってもらいたい」との思いから、壁つけの一型カウンターとは別に1600mm角と大きなアイランド型カウンターをデザインした。下部には食材や食器、ダストボックスを収納してすっきりと見せたほか、ハイツールを置いて軽い食事が取れるスペースも。今では家族や友人と会話をしながら調理したり、脇のダイニングテーブルやリビングのソファでくつろいだりなど、皆の団らんの場となっている。

キッチンの北側には、洗面、トイレ、ランドリーが一体となった機能的な一室があり、さらにその奥のバスルームはテラスに面する。これは、仕事で多忙な夫に家ではゆったりとバスタイムを過ごしてほしいという妻の考えにより実現。坪の高さは近隣からの視界を考慮し、空だけが切り取られるよう西側を2.7m、そのほかを1.6mに設定した。吹き抜けを中心に各居室を回遊できるプランとしているため、テラスには階段脇のワークルームからも出入りが可能だ。

また、堀内さんは部屋の面積が大きいほど室内が暗くなることを懸念し、吹き抜け以外にも光を取り込む工夫を随所に施した。たとえば、デッキテラスに面する階段の南側は全面ガラス張りとし、キッチンの西側は天井高いいっぱいに開口を確保。一方、敷地の南側は建物が隣接するため、リビングの南側にトップライトを配し、一日を通して光の移ろいを楽しめる演出とした。

家族がそれぞれのスペースを持ちながらも互いの気配を感じられる豊かな空間を実現したF邸。キッチンで家族や友人と語らい、バスタイルにはゆったりと星を眺める。オーナーの人柄が表れた伸びやかな住まいには、今日も明るい笑い声が響きわたる。



右頁／ダイニングテーブル脇から吹き抜け越しにテラスを望む。さまざまな角度から採光を確保するため、吹き抜けに面して幅1.5m×高さ2.4m、キッチン西側に幅3.6m×高さ2.4mのガラス張りの開口を設けた。採光量を調節するファブリック製の白いロールスクリーンが柔らかな表情を添える。また、吹き抜けを中心には各部屋が回遊できるプランとし、開口を通じてほかの空間が見渡せるよう配慮することで、視覚的にもつながりを持たせた。手前のアイランド型カウンターにはハイスツールを置き、軽い食事が取れるスペースに上／バスルームから直接アクセスできる開放的なテラスでは、夜になると満点の星空が迎えてくれる。壁を光沢のある茶色いタイル貼りとしたバスルームは、木製ブラインドを閉めてこもる雰囲気でくつろぐことも可能だ。右手前の開口奥はワークルーム。右／キッチンから一直線でつながる北側の水まわりを見る。右手の収納には身支度や家事をスムーズに行えるよう、洗濯乾燥機や衣類などを収納。この収納や洗面カウンター下部の面材、ブラインドを茶色で統一するほか、トイレには木製の蓋がつけられるTOTOの製品を採用することでインテリアを調和させた。手前左に見えるキッチンに配した冷蔵庫脇の壁にも収納を設け、スペースを有効に活用



上／敷地の最奥に当たる親世帯の1階南側に配された和室は、父親が能の稽古をする場所。床はしっとりとした質感のヒノキ材と本畳、壁は漆喰とするなど、素材にこだわった。床座からの視点を考慮して、高さ1500mmと低めに設置した開口から中庭の緑を眺められる。幅250mm×高さ750mmと縦長に割りつけた障子が和の風情とモダンな印象を醸す 下／和室東側の襖もエントランスと同様、川島企画の唐紙を採用。一つひとつ手作業で刻印された金色の桐の紋が味わい深い。愛嬌のあるひょうたん型の引き手はご両親のお気に入りだ

左頁／全面道路に面する北側外観。ガレージのあるグレーの建物が子世帯、正面奥の白い建物が親世帯の住まいだ。手前には妻が建築家の堀内雪さんと共に選んだジューンベリーやカシワバアジサイを植樹した。2棟の間に配したアプローチを通り抜けるとデッキテラスが現れる





DATA

構造と規模／木造 地上3階建て
 敷地面積／185.32m² 建築面積／103.09m²
 床面積／1階94.81m² 2階93.16m² 3階64.17m² 合計252.14m²
 家族構成／夫（40歳） 妻（38） 長男（7） 次男（3）
 父（69） 母（64）

※設計データは206頁に掲載

□ 子世帯 □ 親世帯

